会　員　各　位

2024 年（令和 6 年）年頭ご挨拶

ロータストラックネット

代表　福島 勇人

新年明けましておめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は代表就任 2 期目スタートの年、2024 年に迎える諸課題を念頭に「Beyond 2024」というスローガンを掲げ、業界を取り巻くさまざまな課題に取り組んでまいりました。

特筆すべきは、本年 10 月から始まる OBD 検査のプレ運用が昨年 10 月からスタートいたしました。ロータストラックネットとしては技術委員会を中心に情報の収集・発信、そして全国大型自動車整備工場経営協議会、関東トラックモニタリング協同組合との 3 団体共催によるセミナーを国土交通省様、安全自動車様のご協力をいただきまして開催し、新制度への対応準備をすることができました。

他にも、組織強化委員会よる会員増強への取り組みの結果、期初 222 会員から 225 会員へと会員増が図られ、経営強化委員会ではフロントマンミーティングの全国開催と大型自動車鈑金見積研修の実施、そして、営業開発委員会からは定期的な新商材の発信、さらに特命プロジェクトでは「トラック整備業界における事業環境の将来展望プロジェクト」の第 2 ステージでの調査・研究が進められています。 また、人材確保への取り組みや関係諸団体との連携強化も順調に進められています。

このような成果を上げることができたのも各委員長の積極的な委員会活動や地区幹事による地区会活性化への取り組みのおかげと感謝申し上げます。

さて、本年の世界経済は、2021 年のコロナショックからの回復をみせたものの、2022 年のウクライナショックで縮小に転じ、さらに 2023 年には高金利や高イン

フレで停滞感が強まりましたが、緩やかに成長を維持する 1 年と予測されています。
　一方日本経済は、アフターコロナの社会経済活動の正常化を反映して緩やかな回復基調を維持でき、物価上昇や海外経済減速による下振れ懸念はありますが、雇用・賃金の増加を背景に個人消費の拡大や企業の前向きな設備投資が景気を押し上げ、本格的な成長フェーズに入っています。

　バブル崩壊後の「失われた 30 年」によってデフレマインドに苦しみましたが、今やインフレ経済下にあり、新たな 30 年サイクルへと向かっています。 従来は、いかにしてコストを抑え安く提供できるかという価値で競い合ってきましたが、今後はコストアップを前提として、どのようにクオリティを上げ、適正価格で顧客に選ばれるかが重要になっています。 価格に競争力を見いだすのではなく、自社が創造する固有の価値を磨き上げることで競争優位性を発揮する「クオリティリーダーシップ」こそが今後の企業に必要とされています。
　このような状況を念頭に、自動車業界における高度化車両・新制度への対応、会員各社の競争優位性を高められる情報の発信を中心に活動を進めてまいります。
　本年も、ロータストラックネットの各種取り組みへのご理解と積極的なご参加をお願い申し上げます。

　最後に、会員各社のご繁栄と会員皆様のご健勝をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。 本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。